

# 4

## マナー・情報収集・社会的関心について

### 関心の高い社会問題 ..... 38

関心は国内政治から国際政治へ

「国際政治」は15.8%から44.0%へ、「国内政治」は35.0%から27.8%へ

### 学生が自覚する悪いマナー ..... 39

授業・ゼミのマナーはこれでいいのだろうか？

授業・ゼミに関するマナー項目合計44.0%で増加傾向あり

喫煙マナーは前年度比6.7ポイント減の20.9%

### 飲酒がもたらす悪影響 ..... 40

過度な飲酒習慣は学生生活を健康面でも勉強面でも阻害する

留年学生は「ほぼ毎日飲む」、「週2～3回飲む」学生が37.3%

「ほぼ毎日飲む」学生は健康でない割合が30.2%と高率

### 喫煙がもたらす悪影響 ..... 42

喫煙は食生活を乱し飲酒頻度も増えて健康を損ない、マナー意識をも鈍感にする

「31本以上」喫煙する学生の45.5%が健康状態に問題あり

「吸わない」学生の83.2%が健康状態に問題がない

ご飯を「3食きちんと食べる」割合→「吸わない」学生：54.4%、「31本以上」吸う学生：27.3%

### 情報収集 ..... 44

インターネットが学生生活に密着

大学情報は「Waseda-netポータルサイト」57.9%、「早稲田大学Webサイト」40.5%、

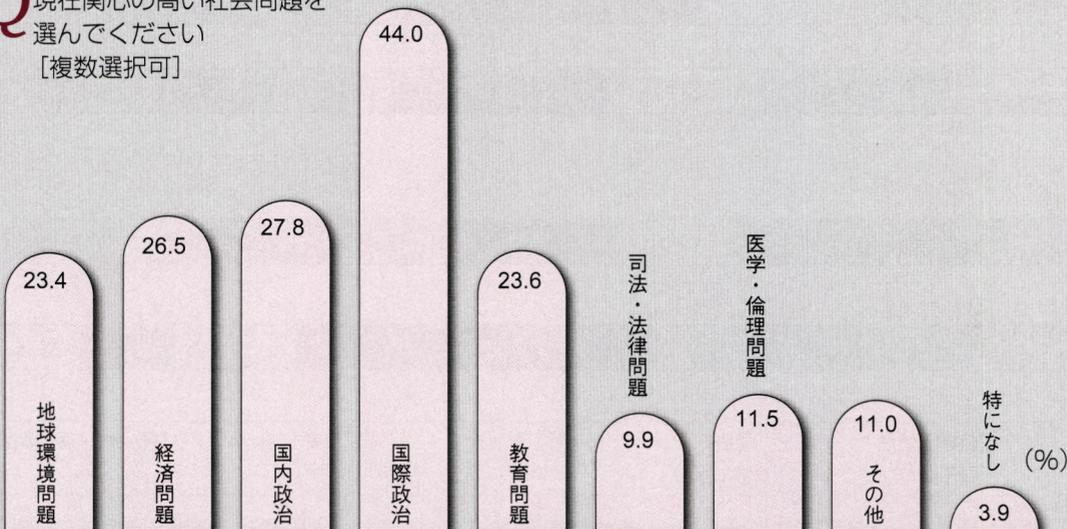
社会情報は「Webサイト」39.3%

### ボランティア活動 ..... 46

まだまだ少ないボランティア経験者

ボランティア未経験者は75.2%

Q 現在関心の高い社会問題を選んでください  
[複数選択可]





# 関心は国内政治から国際政治へ

関心の高い  
社会問題



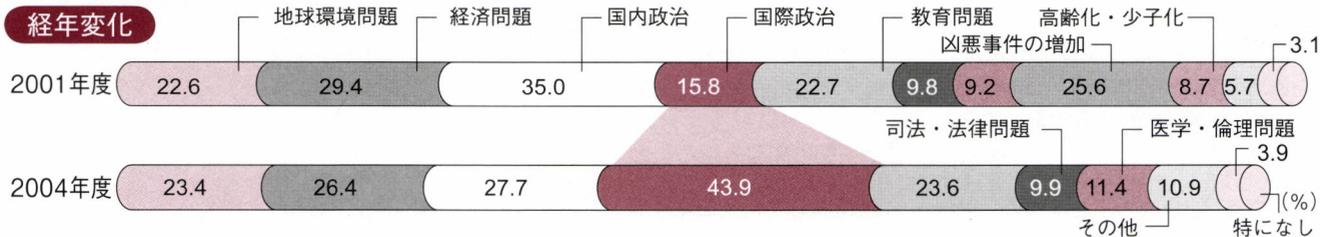
「国際政治」は **15.8%**から**44.0%**へ、  
「国内政治」は **35.0%**から**27.8%**へ

関心の高い社会問題については、2001年度と比較すると「国際政治」が15.8%から43.9%へと大幅増加し、逆に「国内政治」が35.0%から27.7%に減少しています。その他では大きな差異はありません。長引くイラク戦争やその派兵問題、アジア発展の大きなうねりがあるのでしょうか。

男女での違いを見てみると、男性の方が顕著

に高いのは「経済問題」(32.8%)で、女性の方が高いのは「国際政治」(49.8%)、「教育問題」(27.8%)です。文系と理系とでは、文系は「国際政治」(46.5%)、理系では「地球環境問題」(35.8%)が高くなっています。留学生では「国際政治」(58.4%)、「経済問題」(44.2%)、「地球環境問題」(32.5%)が高いことが特色となっています。

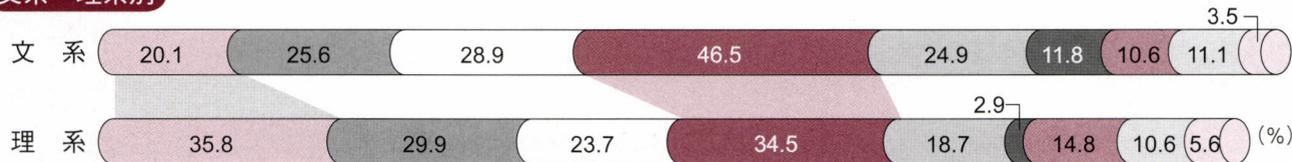
現在関心の高い社会問題を選んでください [複数選択可]



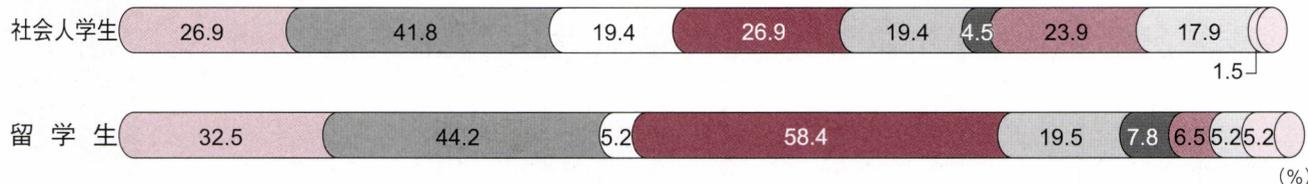
## 男女別



## 文系・理系列



## 学生種類別



※数値は、縦軸の回答者数のうち、横軸の選択肢を回答した割合。



# 授業・ゼミのマナーは

## これでいいのだろうか？

学生が自覚する  
悪いマナー



授業・ゼミに関するマナー項目合計**44.0%**で増加傾向あり

喫煙マナーは前年度比**6.7ポイント**減の**20.9%**

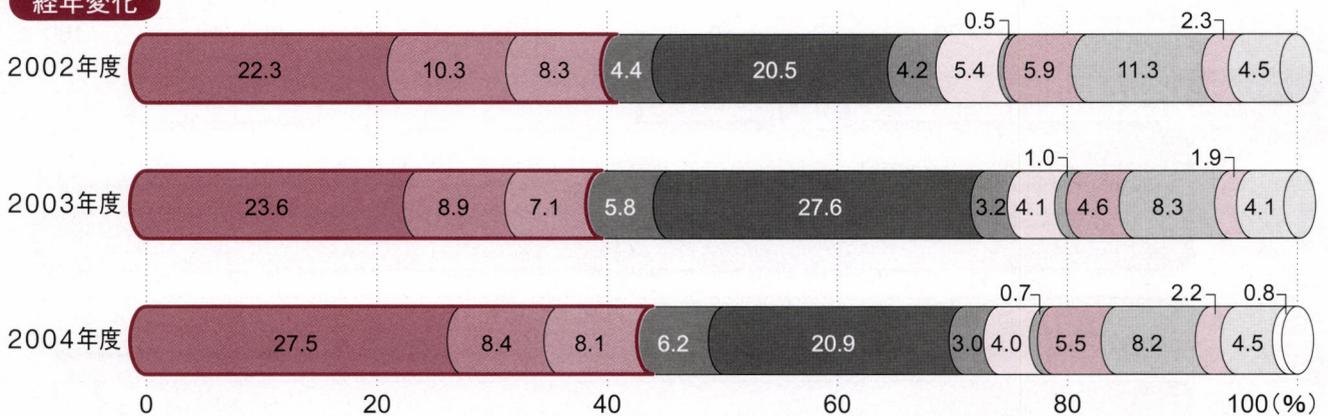
学生自身が「マナーが最も悪い」と考えているワースト5は「授業・ゼミ中の私語」、「喫煙マナー」、「授業・ゼミ中の携帯電話」、「立看板・ビラ・ポスターの大量消費」、「授業・ゼミへの遅刻」となっていますが、この構成は2002年度から今年度までの3年間で変わりはありません。しかし昨年度大幅に増加（7.1ポイント）して1位となった「喫煙マナー」は6.7ポイント減少して、2位に後退しました。これは喫煙マナーに対する本学の取り組みとともに、社会的関心の高まりに対して、喫煙者の意識・行動の改善や学内における分煙化などの制度的な整備が、その背景にあるのかもしれない。

れません。

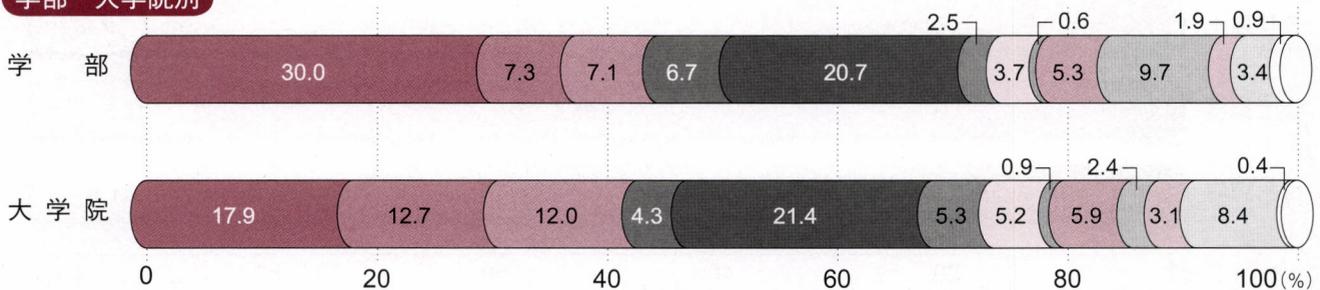
学生の本分であるはずの「授業・ゼミ」に関するマナー3項目の合計は、44.0%と全体の半数に迫る状況です。学部学生と大学院学生とを比較すると、「授業・ゼミ中の私語」は学部学生で30.0%、大学院学生で17.9%と顕著な差が出ています。しかし授業・ゼミに関するマナー3項目の合計で見ると、学部学生44.4%、大学院学生42.6%とほとんど差がなく、学生として勉学に対する取り組み姿勢について一人ひとりがもう一度考え直す必要があります。

学生のマナーが最も悪いと思われる項目を選んでください

### 経年変化



### 学部・大学院別



- 授業・ゼミ中の私語
- 授業・ゼミ中の携帯電話
- 授業・ゼミへの遅刻
- 飲酒マナー
- 喫煙マナー
- 施設の使い方
- 道・通路の歩き方
- 水道・電気などの資源の無駄使い
- ゴミの捨て方
- 立看板・ビラ・ポスターの大量消費
- その他
- 特になし
- 無回答



# 過度な飲酒習慣は学生生活を健康面でも勉学面でも阻害する

飲酒がもたらす  
悪影響



留年学生は「ほぼ毎日飲む」、「週2～3回飲む」学生が**37.3%**  
「ほぼ毎日飲む」学生は健康でない割合が**30.2%**と高率

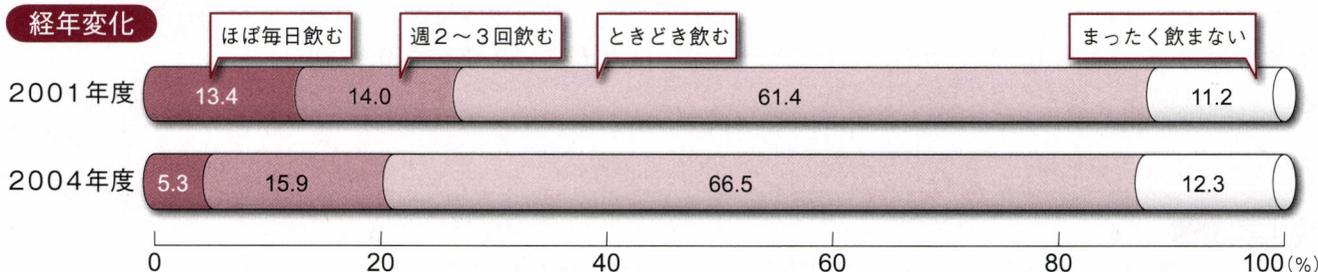
飲酒の習慣として、3年前の2001年度と比較すると、飲む人の割合は変わらないものの、「ほぼ毎日飲む」人が13.4%から5.3%に減少し、飲酒の常習性が減っていると見られます。

しかし学年別に見ると学部1年生ですでに少しでも飲む人の割合は81.6%、「週2～3回」以上飲む習慣を持つ学生が17.0%もあり、その大半が未

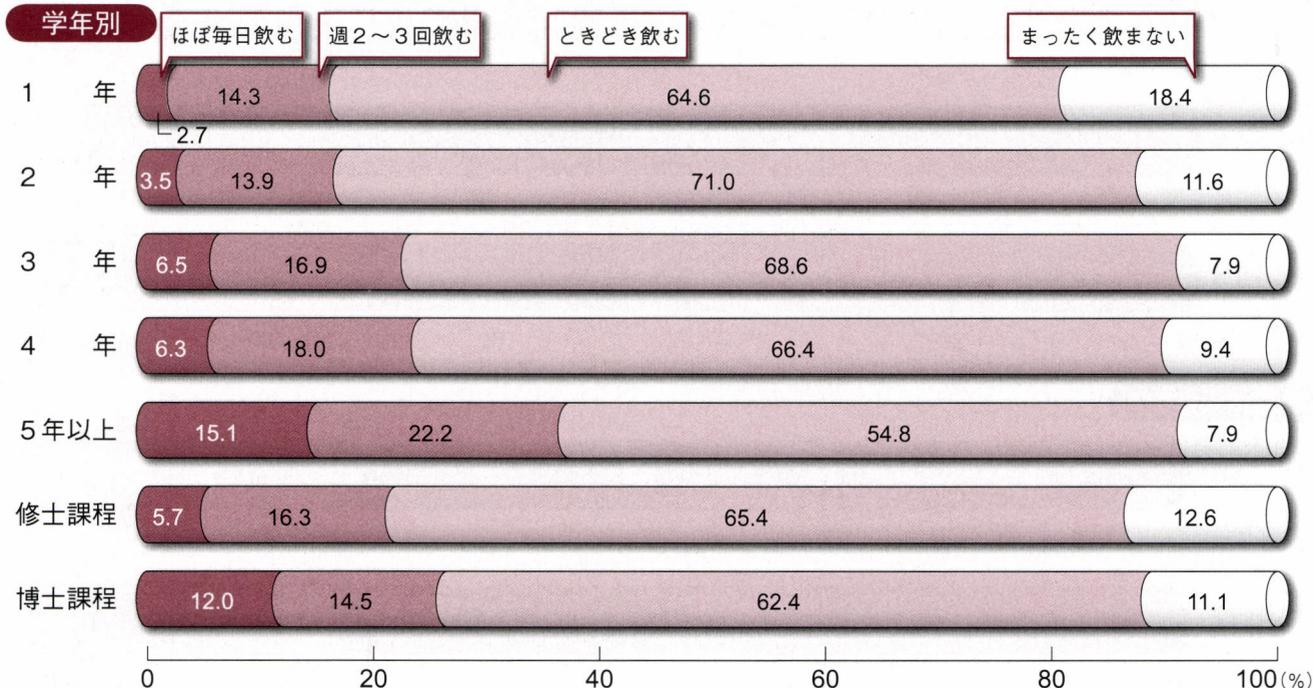
成年であることを考えると、望ましいことではないことは確かです。また学年が上がるにつれて、「まったく飲まない」学生が減少するとともに、飲む回数が増えていくことも憂慮すべき事態かと思われま。特に、学部5年生以上の飲酒習慣が「週2～3回」以上では37.3%と突出して高く、留年との関連性が心配されます。

お酒を飲む機会はどれくらいありますか？

## 経年変化



## 学年別



また、飲酒頻度と健康状態との関係を見てみると(次頁)、「ほぼ毎日飲む」学生は「週2～3回飲む」、「ときどき飲む」学生に比べて、健康でない

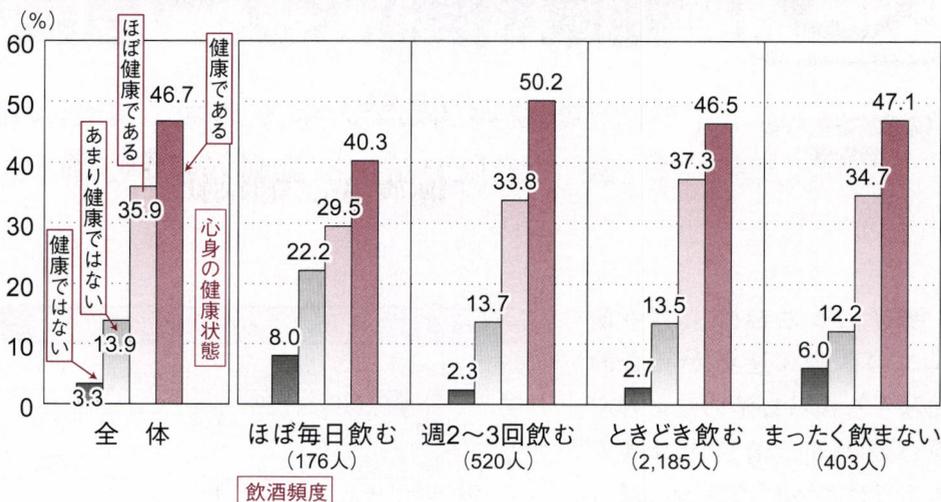
(「健康ではない」、「あまり健康ではない」)学生の割合がほぼ2倍の30.2%となっており、その因果関係が心配されます。学生生活を有意義に過ご

すためにも、飲むにしても適度な飲酒を心がけたいものです。

ところで、飲酒マナーについて早大生自身がよくないと感じている点は、2001年度では「泥酔」が64.0%と圧倒的に多かったのに対して、2004年度ではそれが約3分の1に減少した一方で、「路上での通行の邪魔」、「大声を出す・騒ぐ」、「飲酒・一気飲み強要」といった飲酒にともなう他人に対する迷惑行為を指摘する傾向が強くなっています。飲酒頻度と飲酒マナーの気になる点の関係ですが、特に目立った傾向がないこ

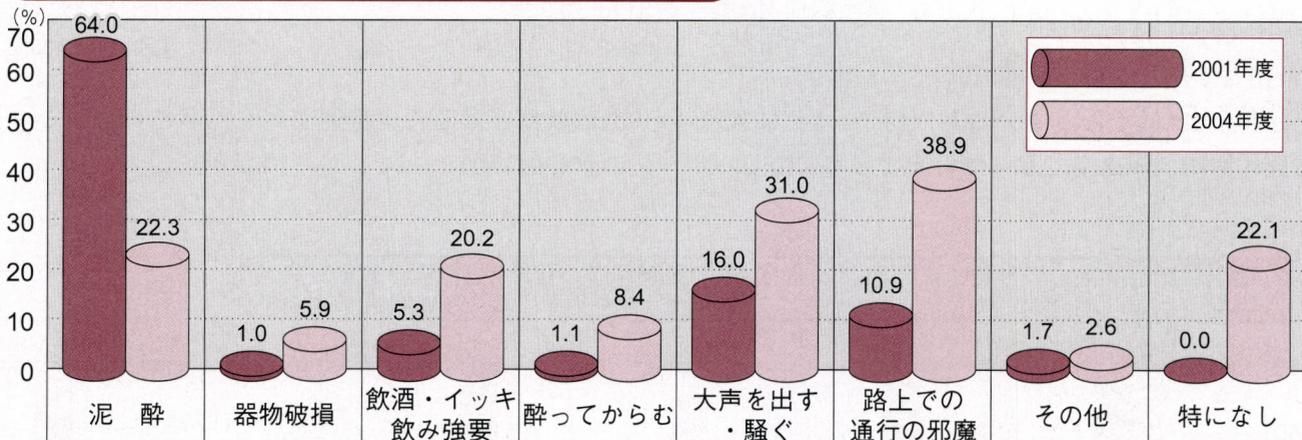
クロス集計

凡例 あなたは今、心身ともに健康な状態（勉学に支障がない程度）だと思いますか？／横軸 お酒を飲む機会はどれくらいありますか？



とから、飲酒頻度が高いからといって、飲酒マナーの悪い点を見逃しているというわけではないようです。「あとは飲酒マナーの実践あるのみ！」といったところでしょう。

早大生の飲酒マナーが特に気になる点がありますか？



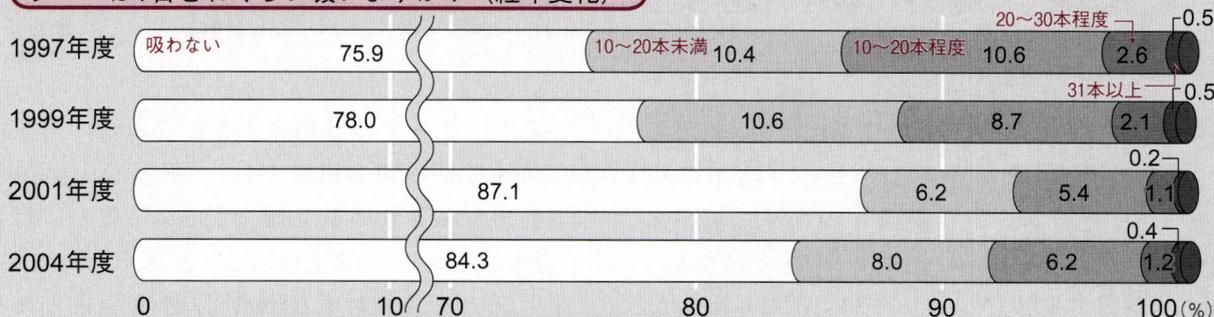
※2004年度は複数選択となっているため、合計が100%を越える。

## コラム

飲酒と共にマナーの話題で挙がるのが喫煙ですが（詳細は次頁参照）、経年変化を追っ

てみると、徐々にではありますが、喫煙者は減少傾向にあります。

タバコは1日どれくらい吸いますか？（経年変化）



※1997年度、1999年度の調査は、「学部学生」、「大学院学生」、「留学生」と対象者を分け、それぞれに別の質問項目で調査しているため、ここでは「学部学生」の数値を掲載している。



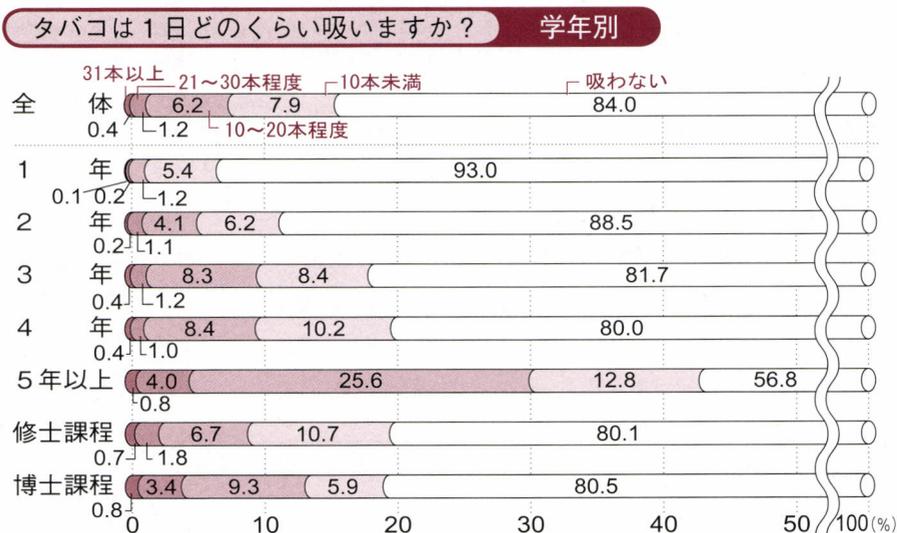
# 喫煙は食生活を乱し飲酒頻度も増えて健康を損い、マナー意識をも鈍感にする

喫煙がもたらす悪影響

**POINT** 「31本以上」喫煙する学生の**45.5%**が健康状態に問題あり、「吸わない」学生の**83.2%**が健康状態に問題がない、ご飯を「3食きちんと食べる」割合→「吸わない」学生：**54.4%**、「31本以上」吸う学生：**27.3%**

喫煙による健康障害や他人への危害・迷惑が社会的問題とし扱われ始めた影響を受けたのか、前頁のコラムのように徐々に喫煙者は減っています（「吸わない」学生は1997年度75.9%、2004年度84.3%）。

しかし、学年別に見ると、学年が上がると「吸わない」学生の割合が減っています。1年生では「吸わない」学生が93.0%であるものが、4年生では80.0%と低くなっていると同時に、1日に吸う本数も増加の一途をたどっています。特に5年生以

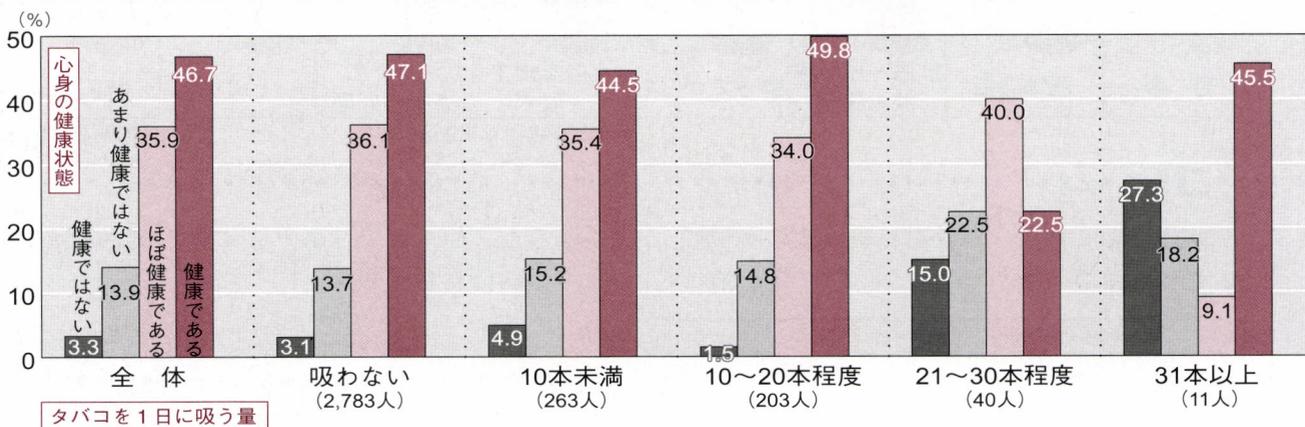


上は飲酒と同じく、喫煙が著しく多くなっているのが心配です。

クロス集計

凡例 あなたは今、心身ともに健康な状態(勉学に支障がない程度)だと思いますか？

横軸 タバコは1日どのくらい吸いますか？



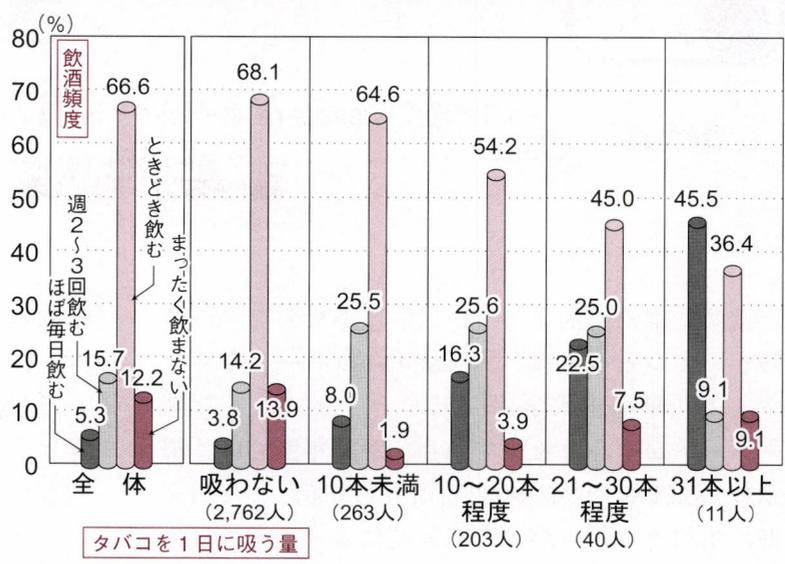
クロス集計を見ると、喫煙本数が増えれば増えるほど、健康状態が良くないという結果になっています。「31本以上」喫煙する学生の45.5%が健康状態に問題があります（「健康ではない」27.3%、「あまり健康ではない」18.2%）。「吸わない」学生と比べると、明らかに喫煙によって健康が損なわれる傾向が見られるといえるでしょう。

また、グラフでは紹介できませんが、食生活との関係を見る別の集計では、「吸わない」学生は「3食きちんと食べる」割合が54.4%なのに対して「31本以上」吸う学生は27.3%と低くなっており、食生活の不規則性と喫煙量の関係が見られました。

さらに、喫煙量の多い学生は飲酒頻度も高くなっていることが見て取れます。「吸わない」学生は「ほぼ毎日飲む」のが3.8%であるにもかかわらず、「31本以上」吸う学生では「ほぼ毎日飲む」のが45.5%を占め、喫煙量と飲酒頻度に相関性があることが分かります。しかも、喫煙量の多い学生も飲酒頻度の高い学生もそれぞれ健康状態に問題のある学生が多い傾向が見られたことから、「喫煙量の多い学生は食事も不規則となり、飲酒頻度も高く健康状態に問題がある可能性が高い」ということが見いだせます。喫煙はなるべく避けることが賢明といえるでしょう。

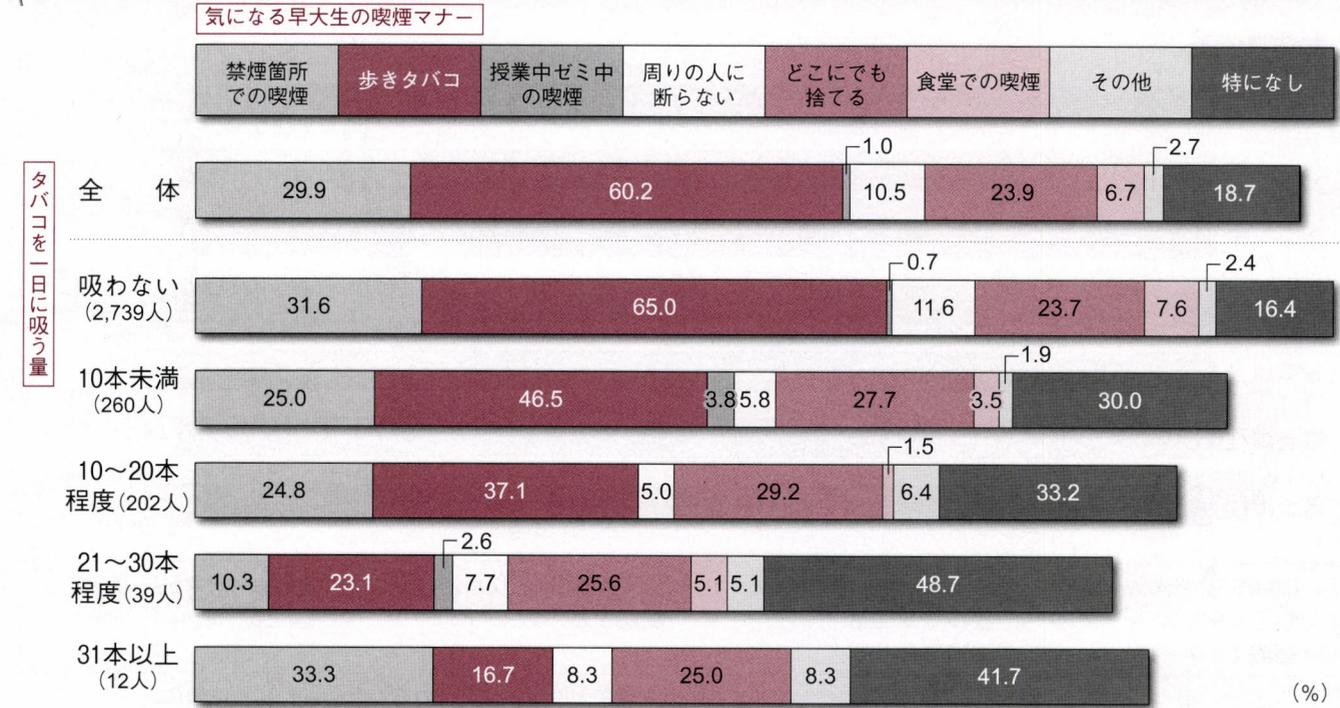
喫煙マナーに関しては、「歩きタバコ」、「禁煙場所での喫煙」、「どこにでも捨てる」がワースト3に挙げられています。特に「歩きタバコ」のマナー違反が圧倒的に多く、何と回答者の60.2%が指摘しています。社会的にも「歩きタバコ」による傷害事件や地方自治体の条例による罰則強化などが話題となっていますが、学内においても分煙を徹底させて、この問題を解決していかなければなりません。

クロス集計 凡例 お酒を飲む機会はどのくらいありますか？  
横軸 タバコは1日どのくらい吸いますか？



ところで喫煙量とマナー意識との関係ですが、吸わない学生ほど気になるマナーの項目数が増える傾向にあります。そして喫煙量の多い学生ほどマナーが気になる点は「特になし」という傾向が強まる結果となっています。また「歩きタバコ」に対しては無神経になっています。飲酒ではその頻度が高い学生もマナーの問題点はきちんと把握していますが、喫煙に関しては、吸う学生ほどマナー意識が鈍感になっているというところに問題点があると考えられます。

クロス集計 横軸 早大生の喫煙マナーが気になる点はありますか？[複数選択可] 縦軸 タバコは1日どのくらい吸いますか？



※数値は、縦軸の回答者数のうち、横軸の選択肢を回答した割合。



# インターネットが 学生生活に密着

情報収集



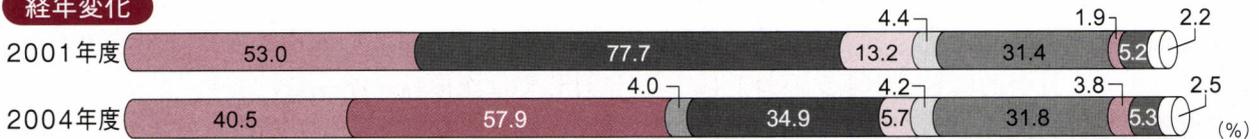
大学情報は「Waseda-netポータルサイト」**57.9%**、「早稲田大学Webサイト」**40.5%**、  
社会情報は「Webサイト」**39.3%**

授業や課外活動など学生生活に不可欠な学内情報チャンネルと言え、**「Waseda-netポータルサイト」と「早稲田大学Webサイト」というインターネットが中心となっており、2001年度では「掲示板」66.1%、「大学の事務所」11.6%だった旧来型の情報チャンネルが、2004年度には「大学の事務所・掲示板」と合わせても34.9%にまで減少しています。インターネットは学生にとって情報収集の主なツールになっているようです。しかし、留**

学生は日本語のハンディの関係もあるのでしょうか、「大学の事務所・掲示板」の利用が多くなっています。また、学年との関係を見てみると、学年が上がるほど「Waseda-netポータルサイト」の利用ではなく、「大学の事務所・掲示板」の利用が多くなっています。これは低学年ほどインターネットの利用を前提としたカリキュラムが浸透しているためと考えられます。

大学に関する情報は主にどこから入手しますか？ [複数選択可]

## 経年変化

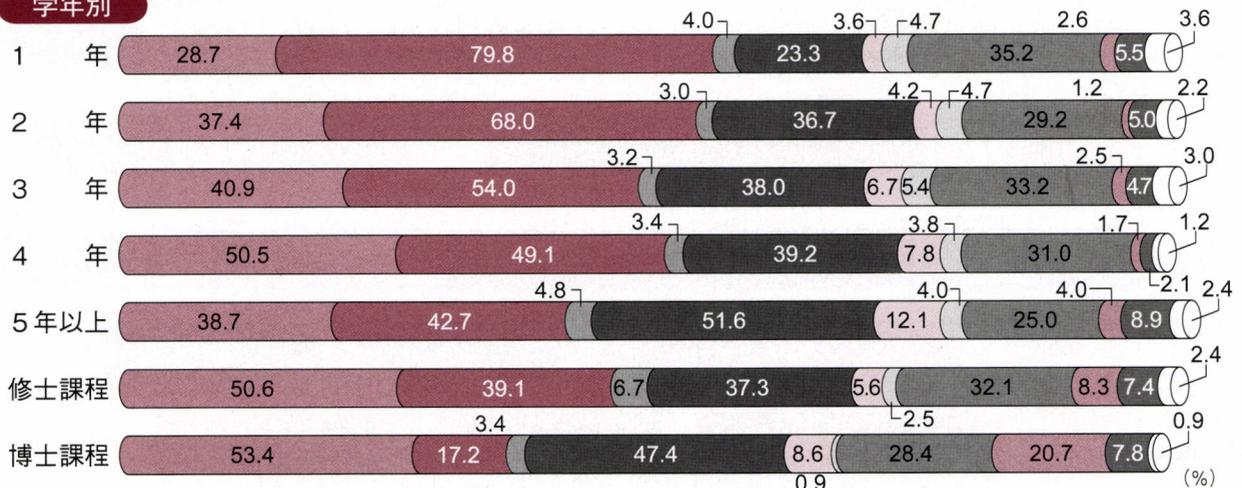


※2001年度の選択肢には、「Waseda-netポータルサイト」と「大学のメーリングリスト」はない。

## 学生種別別 一部抜粋



## 学年別



早稲田大学Webサイト
  Waseda-netポータルサイト
  大学のメーリングリスト
  大学の事務所・掲示板
  早稲田ウィークリー
  チラシ・立看
  友人や知人の口コミ
  教員
  インターネット
  その他

※回答率の低かった選択肢を「その他」にまとめた。

※数値は、縦軸の回答者数のうち、横軸の選択肢を回答した割合。

社会に関する情報のチャネルについては、全体では「TV」、「新聞」、「Webサイト」が飛び抜けて多くなっていますが、この傾向は2001年度と比較すると、「Webサイト」が21.4%から39.3%に大幅増加した以外はほとんど変わりません。

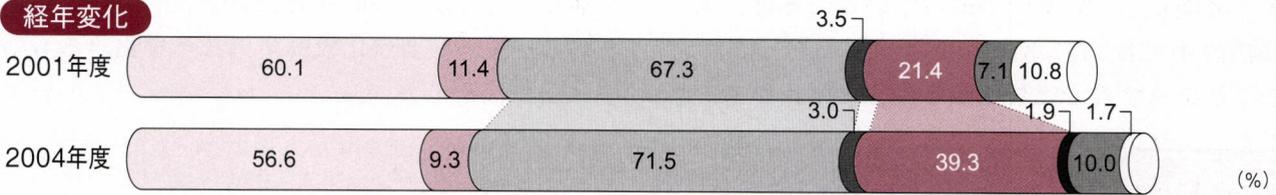
学年別に眺めてみると、学年が上がるにつれて「Webサイト」による情報取得が増える代わりに、「TV」が減少しています。また就職活動のた

めに「新聞」を読むようになるとよく言われますが、この調査結果では4年生や修士課程の学生に顕著な傾向は見られません。これに比べて、社会人学生は「新聞」を情報源としている者が67.6%となっていました。また、留学生では「Webサイト」を情報源とするものが71.4%、「友人」が23.4%に上っていることが大きな特徴となっています。

社会に関する情報は主にどこから入手しますか？ [複数選択可]

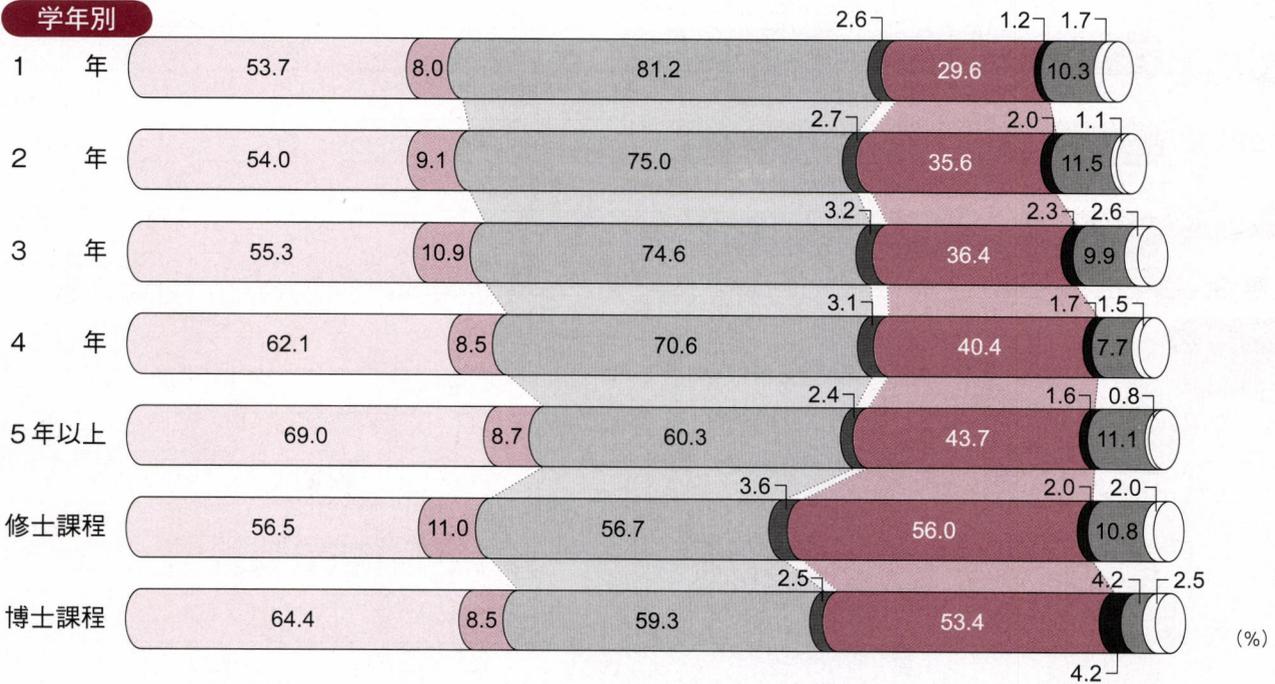


経年変化

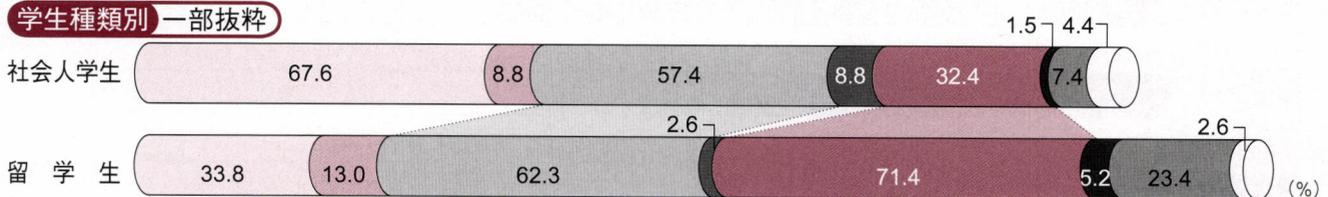


※2001年度の選択肢「インターネット」は「Webサイト」に読み替えた。また、2001年度の選択肢には「メールマガジンなどのメールサービス」はない。

学年別



学生種類別 一部抜粋



※数値は、縦軸の回答者数のうち、横軸の選択肢を回答した割合。



# まだまだ少ない

# ボランティア経験者



ボランティア活動



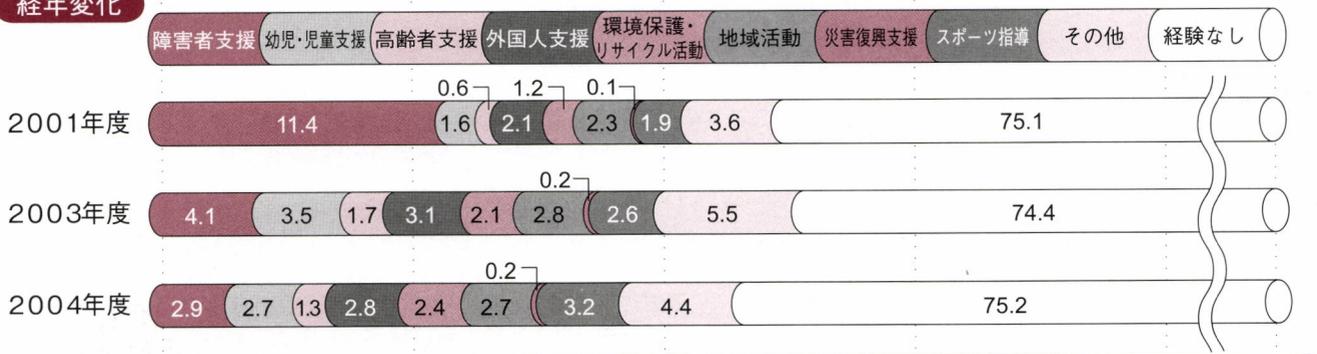
ボランティア未経験者は**75.2%**

大学生になってからのボランティア経験者はわずか4人に1人という割合に過ぎないことが、2001年度以降ずっと変わらないのはちょっと残念です。しかし、学年が上がるにつれて、少しずつですが「経験なし」の割合が減っていることは、大学生活の中で次第にボランティアの機会を得ていることを示すのではないかと考えます。ボラン

ティア活動の種類は、2001年度は「障害者支援」(11.4%)に偏っていたのに対して、その後はさまざまな種類へと分散化の傾向を見せています。その中で、大学院学生は「外国人支援」(5.3%)が高く、海外からの研究者や留学生への研究を通じての支援の機会が比較的多いことを物語るものかと思われます。

大学生になってからボランティア活動に参加したことがありますか？  
経験のある人は主なものを教えてください

### 経年変化



### 学年別

